

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 花\*花

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200327		
法人名	JAライフサポート		
事業所名	グループホーム 花*花		
所在地	〒028-2102 岩手県宮古市墓目第三地割15番1		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町村受理日	令和2年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年は花壇に力を入れました。球根の配置を工夫したり、背の高くなる草花は奥に植えよう、そして咲く順番等にも配慮しながら花壇を完成させました。草花の特徴や名前を入居者に調べていただき、名前を書いたプレートを近くに挿しました。花が終わるころになると、「ここに花が足りなかったから来年はこれを植えたらいいいかな」などと意見も聞かれました。日光浴がてら、花がらつみもしております。ご近所さんから、根がついたお花を頂くこともあり一気に花壇が賑やかになりました。畑では9種類ほどの野菜を育て、気候をみながら職員と一緒に草取りをしております。畑でとれた野菜を使用した食事が提供される際には、入居者に伝え感想を聞いております。感染症が流行し思うように外出が出来ませんでしたが、免疫力を高める方法などを提供し実践したり、日光浴を多くし外で体操をしたりと季節を感じながら元氣よく過ごしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、職員が話し合っただけで定めた理念を会議等を通じて共有し、その実践に向けて個々の職員が設定した目標の実践状況について、管理者と職員が評価することで、介護サービスの向上に繋げている。また、運営推進会議での助言により、ケアの技法として「ユマニチュード」を取り入れ、職員のスキルアップに繋げ、見る、話す、触れるなど、利用者に寄り添いながら、よりきめ細かな介護サービスを提供している。医療機関受診の際には、利用者の生活状況を記録した診療ノートを家族に渡し、医師等が記載した診療内容と併せて、利用者の健康の保持やリハビリなどの機能回復に資している。終末期のターミナルケアについては、日頃から週2回来訪する看護師の指導を得ており、重度化した場合には、家族の意向と訪問診療医の指導に添って、他の関係機関への移送又は施設内での看取りを選択している。これらについては、医師、看護師、職員による振り返りを行い、次の対応に活かしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年10月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員皆で話し合い作成した理念を玄関や食堂に掲示し、意識付けをしております。職員一人一人が理念を達成するための具体的な取り組み内容と、個人目標を決め、毎月自己評価をし振り返りを行っています。	グループホームの理念を施設内に掲示するとともに、職員会議等を通じ職員間で共有している。理念の実践に向け、職員ごとの目標を定め、管理者と職員がその実践状況を評価し、介護サービスの向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃からご近所の方々に切り花をいただいたり、畑作りのアドバイス、日光浴の際に声を掛けていただいたりと交流があります。地域の敬老会に招待いただき参加しております。	コロナ禍により、従来行っていた地域住民参加のバーベキューや中学生の奉仕活動の受け入れは中止しているが、利用者の散歩の際には住民から声を掛けられ、また花壇の球根を提供していただいている。地域の廃品回収に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開かれる認知症カフェに参加させていただいております。認知症の理解、グループホームの役割などを地域の皆様に広めるお手伝いができればと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、訪問看護ステーションの看護師、行政、地域包括支援センター、利用者家族を委員としております。主に入居者の生活状況やヒヤリハットなどについて報告しております。	コロナ禍のため中止していた運営推進会議を9月から再開した。ドライブなどの外出が難しい中、施設内での楽しい取り組みや看護師の助言によるユマニチュードの実践など、会議での提案を職員のスキルアップと介護サービスの充実に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者にも参加をしていただき、意見やアドバイスをいただいております。大雨警報の翌日などには、被害がなかったかどうかの状況確認の連絡をいただいております。	運営推進会議の委員として、各種情報の提供や指導、助言を受けているほか、市主催の集団指導会や研修会、認知症カフェなどに職員を派遣し、職員のスキルアップと介護サービスの向上に繋げている。また、要介護認定申請や生保関係の届け出などの際にも、指導を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止適正化委員会を設置しております。ホールにマニュアルを置き、いつでも確認できるようにしております。車椅子から立ち上がる入居者には職員が共に過ごし、ベットからの転落の可能性のある入居者は畳の部屋で休んでいただくなど、試行錯誤を重ねております。	本部の身体拘束適正化の委員会に職員を派遣し、その内容を職員会議等を通じて事業所内に周知するとともに、対応策について話し合い、日々の介護サービスに活かしている。特に、車椅子利用者のサポート、言葉遣いなどは、職員間で注意し合っている。身体拘束の事例は無く、玄関や居室の窓の施錠も夜間のみで、転倒予防のマットやセンサーの使用もない。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 花\*花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての内部会議を行い定義、実態、対策等を学ぶ機会を設けております。職員同士の思いも大切に、対応が困難な場合は無理をせず他職員に声を掛けることが出来るような環境作りに努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がおり、必要時には関係者と連絡を取り合っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時には説明を行い家族や入居者に不安が残らないように心掛けております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からゆっくりと話を聞くように努めております。ご家族とは必ず面談し、入居者の最近の状況や変化等をお伝えし、意向等を聞くようにしております。病院受診が困難な家族の要望から、送迎や通院対応を調整しております。	事業所として半年ごとに「かわら版」と題する広報紙を発行しながら、家族の来所時や医療機関受診の際に、要望等を伺っている。特にコロナ禍のため来所が制限されていることから、毎月、利用者ごとに生活の様子を管理者から家族に手書きでお知らせしている。利用者の食事、お手伝いなどの要望にも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を毎月開催し、職員の意見から業務内容の変更や、入居者の対応の仕方などを見直す機会となっている。	職員ごとの個別シートに仕事の内容や意見・提案等を書きとめ、それを基礎に管理者と職員が話し合っており、業務の改善や勤務内容の変更などに対応している。何でも話しやすい雰囲気を作成し、行事やリハビリ、花壇の手入れなどに職員の提案を活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望は可能な限り受け入れております。		

事業所名 : グループホーム 花\*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中で、介護勤務実績が長い短いに関わらず、介護の基本に戻るような内容の研修を開くこともあります。訪問看護師を交えて、看取りの振り返りをし職員の思いなどを吐き出し、次へつなげることが出来るよう取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域連絡会議等に参加し、同業者と情報交換をしております。相互訪問等の活動までは至っておりません。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人とご家族に面会し、グループホームの環境や目的について説明しております。不安な事は気軽に聞いていただけるように、聞きやすいような雰囲気作りを心掛けております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族の利用に対する不安が少しでも軽減できるように努めております。入居後慣れるまでの間、ご家族に電話で対応していただくこともある旨を了承していただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より、他事業所などと連携を図り身体状況の変化の把握に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃の声掛け等で、寄り添いながら楽しく満足していただけるよう心掛けております。失礼のないように言葉遣いに気をつけながら、娘息子になり、時には孫になったりと賑やかに過ごしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者が入院中でありましたが、ご家族が話をしたいと来所されました。入居者への思いや、事業所への思いなどを話されておりました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅が気になられる方は、受診の帰りに寄り必要なものを持ち帰っております。	遠方の親戚がお土産持参で利用者を訪ねて来たり、友人からの手紙に利用者本人が返事を出したり、或いは以前お世話になっていたガス検針の方が来訪し利用者との交流が再開するなどしている。これら利用者本人の慣れ親しんだ旧友や隣人等との繋がりを絶やささない支援を大切にしている。病院受診の際には、家族と一緒に自宅を訪れる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係が出来る限り良好に保てるよう、話題作りや会話の橋渡しのために、職員が間に入るなどして対応しております。落ち着かず歩き回っている方に、「どうしたの？」などと声を掛けている場面が多くみられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り後に契約が終了したご家族がお寄りになることもあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を大切にし、一人ひとりの個別ケアを重視するために受け持ち担当制を敷き、以前よりも寄り添って話を聞く時間が多くなっております。	お刺身を食いたい、ビールを飲みたい、草取りや食事のお手伝いをしたい、買い物をしたい、或いは日課として広告紙を使ったゴミ箱を一日に10個作りたい等々、利用者からの希望は様々ある。これらを個別シートに記入し、その情報を職員会議などで共有しながら、それぞれの希望等が実現するよう、きめ細かに支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を、ご本人やご家族に確認しそれぞれに合ったペースで過ごしていただけるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の身体状況や精神状況の変化などを朝礼で報告し、同時に申し送りノートに記録することで把握に努めております。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 花\*花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち担当制にしたことで、情報収集やモニタリングが行いやすくなっております。毎月のカンファレンスで話し合う場合、当日欠席の職員には事前に意見を聞き、全職員間での意見交換が出来ております。訪問看護師の助言も参考にさせていただいております。	介護プランは長期で1年、短期で3か月ごとに見直している。通常は計画作成担当者であるケアマネージャーが看護師の助言も参考にして原案を作成し、利用者の担当がモニタリングしている。職員会議でのカンファレンスを経て成案とし、利用者本人や家族に説明している。投薬回数や本人の生活状況が変化した場合には、随時プランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が共有できるよう、小さな変化も記録することとし、実践や計画見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の流行により、受診の在り方について検討しました。骨粗鬆症の治療のための注射をされている方や、尿道カテーテル交換のための受診の方以外は主治医に相談し、電話診療や薬のみの処方に対応させていただきました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動等には参加をし顔見知りになれるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	7人が入居前からのかかりつけ医を受診しております。通院は可能な限り家族対応とし、受診ノートを活用することで主治医に本人の状態等を適切に伝えられるようにしております。	従来のかかりつけ医を7名が受診し、2名が入居後に医療機関を変更している。受診は家族同伴を原則としているが、家族の要請で4名は職員の同行受診としている。診療ノートには利用者の生活状況や医師の指示が記載され、職員と家族が内容を共有している。精神科、皮膚科を受診する場合も同様である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況を随時報告し、適切な看護を受けることが出来るよう対応しております。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花\*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の医師の説明をご家族と一緒に聞き、お互い理解したうえで進めていくことが出来るよう努めております。入院中は、医療機関やご家族と連絡を取り合いながら安心して退院できるように備えております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に看取りに関し説明しております。終末期にはご家族の意向を確認し、医師、看護師を交えて同意を得て看取りに取り組んでおります。	入居時に重度化対応の指針を家族に説明している。重度化した場合には改めて家族の意向を確認し、かかりつけ医と訪問診療医の連携のもと、訪問看護ステーションの看護師の助言も得て、他施設への移送や施設内での看取りを行っている。看取り後は、職員のスキルアップと対応した職員のケアを目的に、医師、看護師、職員による振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署からAEDを使用した救急講習訓練を受けております。急変時や事故発生時の対応を、その都度訪問看護師より受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを掲示しています。火災想定訓練と水害時の訓練を年2回行っております。災害に備え、2日間の飲料水、食料、備品等を備蓄しております。	7月に火災と水害の避難訓練を実施し、12月には夜間想定訓練を予定している。火災を想定した訓練では、利用者を駐車場へ避難させるほか、2名の地域の方から避難した利用者の見守りの協力を得ている。水害発生時にはマイクロバスで、法人の施設に避難したこともある。食料は2日分を確保し、ガスコンロも常備した。ハザードマップ上、事業所は水害想定地域にあることを確認している。	水害時の避難は、法人のマイクロバスでの移動を前提としているが、車両の走行が困難な場合も考慮し、地域内の避難場所、自主防災組織の支援・協力の確保について、取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への入室は「了承を得てから」、「排泄誘導の際の声掛けは小声で他者に聞こえないように」などプライバシーに配慮しております。	認知症に関する研修に職員を派遣し、事業所で復命研修を実施するなど、利用者への尊厳を失わないよう職員の啓発に努めている。利用者の個人情報やファイル管理を徹底し、またトイレ誘導や入浴介助での利用者の羞恥心についても細かに配慮している。作業を手伝ってもらった際にはその場でお礼を伝えるなど、本人の心情を大切に介護に努めている。広報紙「かわら版」への写真掲載は、予め家族の了承を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時、声掛けを工夫しても拒否がみられる場合には無理はせず、日を改めるなど状況に応じて対応しております。飲み物などは、ご本人の希望を聞きながらできる範囲で対応しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えを尊重し希望に寄り添えるよう支援しております。その中でも季節を感じていただいたり、メリハリをもって一日を過ごしていただくよう援助しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院時には相談しながら、よそ行きの服に着替えております。入浴後に来たい服を、一緒に決めております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の担当職員は入居者の希望を聞き、また食材の買い物には近くの産直等に一緒に出掛けることもある。食器の後片付けやおしぼりの準備なども行っております。	献立は職員が作成し、主食材は外注している。野菜や果物は、利用者と一緒に産直に買出しに出ている。朝は受託事業者のお魚などを提供し、昼食、夕食は利用者も前準備や食器洗いを手伝い、職員が調理して提供している。行事食として、正月のおせち料理、ひな祭りの三色だんご、郷土食のひつつみ、誕生会には本人の希望でから揚げなどを提供している。家族からおやつも提供もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量等を記録し、確保に努めております。水分摂取の進みが思わしくない時には、好みの物を聞き出し、可能な範囲で対応しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日頃から、口腔内の清潔保持の重要性を伝えております。積極的に自ら洗面所へ移動される方もいらっしゃいますが、それ以外の方はこちらから声を掛けております。入居者同士、「行こう」とお誘いの声が聞こえてくるときもあります。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	綿パンツ使用者が1名、リハビリパンツ使用者が7名、オムツ使用者が1名となっております。排泄誘導は基本定時ですが、排泄記録を確認しながら、それぞれの排泄パターンによって代えております。	排泄の状況を利用者ごとに記録し、トイレでの排泄を基本に介助している。自立者は4名で、1名が布パンツで、他者はリハビリパンツと尿取りパットを併用している。夜間のポータブルトイレ利用者は1名で、大きめのリハビリパンツを使用している。家庭で寝たきりだった方が、入居後にきめ細かにトイレ誘導された結果、立ち上がり、オムツからリハビリパンツに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は、ご家族と相談し乳酸飲料(ミルミル)を購入しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月曜日から土曜日の午前中に週2回入浴できるようにしております。通院などの希望に応じた入浴日変更にも対応しております。	入浴は週2回、午前を基本としているが、希望により午後も対応している。浴槽は一般浴と機械浴があり、利用者の状況により使い分けている。ゆず湯、菖湯を提供しているほか、水虫対策として足湯、クリームの塗布も行っている。入浴時は職員と利用者のコミュニケーションの場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お好きな時間に眠ることが出来るよう努めております。自室でテレビを見る方、読書をされる方などがおられます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的等を確認するため、すぐに見ることができるようしております。薬が変更になった場合には、訪問看護師への報告、ノートへの記録で情報を共有しております。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花\*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯たみ、手すり拭きなど役割づけをしております。花壇の様子を見に外へ出たり、暖かい日は日光浴をしております。お盆には、松あかしをしながら花火をして楽しみました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症流行のため、戸外には出掛けていませんが花見弁当を注文したり、二周年記念の際には、施設内で出し物を楽しみました。	今年は、コロナ感染症のため思うような外出支援を行えていない。例年ならお花見や紅葉など数多く外出していたが、今回は、事業所周辺での日光浴・散歩、畑の草取り、花壇の水遣り、花々の寄せ植えなど、機会を捉えて利用者の外出を支援している。日光浴では椅子を出してお茶やおやつを提供したり、産直への買い物、地域の方々との交流を通じた気分転換に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の現金を持参しており、ヤクルトさんへ自ら支払いをされる方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話のご希望があり、対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾り、季節を感じていただいております。トイレや浴室に臭いが残らないよう配慮しております。ゆったりと座りながら皆でテレビが見られるよう、ソファを設置しております。	広々としたホールのほか、相談室、職員控室、テラスなどがあり、ホールには食事用テーブル、大型のソファなど、空間を十分に活かした配置となっている。大きな窓からはたくさんの陽光が差し込んでいる。整理整頓され掃除も行きとどいたホールには、生花や鉢物が配置され、利用者はそれぞれの場所でくつろいでいる。暖房は床暖房で、エアコン、加湿器、空気清浄機で管理された快適な生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれお好きな場所で過ごしていただいております。共有空間の中でもソファなどお好きな場所に座っていただき自由に過ごせるよう配慮しております。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花\*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	ご希望に沿ってご自宅で使用されていた使い慣 れたものをご持参いただいております。ベットやタ ンスの配置を変えたいご希望があれば、一緒に 部屋の模様替えをしております。	利用者の居室には、介護ベッド、整理箆筒が備 え付けられ、床暖房で暖を取っている。利用者の 希望で部屋のレイアウトを変更したり、転落防止 のため畳敷きとした居室もある。部屋には、事業 所での活動状況の写真やカレンダーを掲示した り、衣装ケースやブティックハンガー、姿見、ぬい ぐるみ、家族写真、化粧品などが持ち込まれ、利 用者の好みを大切にした空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	生活するうえで、出来ることを奪ってしまわないよ うに心掛けて対応しております。		